

ぼくらの作品 わたしの作品



お正月は何をして遊びましたか。今回は、楽しかったお正月の思い出を書いてくれた、天間幼稚園のお友だちの作品を紹介します。



しらおひろかす



かねざしちよ



岩本山へ行って、お兄ちゃんとタコあげをやった。キン肉マンのタコだから高くあがったのかなあ。



妹と私とおともだちで、かるたとりをやったよ。読んでいるのはお母さん。ひらがなは、みんな読めるよ。

富士の今と昔

市内を写した古い写真を紹介します。貴重な写真がありましたら、広報広聴課へご連絡ください。



このころは、元吉原、柏原方面から船津や中里へ川船で行き来できました。写真の帆掛け船は、うなぎと

りの船です。その奥は浮いている田んぼで、浮島沼という名の発端となりました。

①

昔

昭和初期の浮島沼と帆掛け船

自然の 自然の

橘田 権治さん



キツネ

晴れた朝、広場は霜で真白になる。富士は終日雪煙をなびかせ、池はカチカチに凍り、戸外の水道もすべて凍ってしまう。すっかり葉を落とした雑木林には光が弾み、リスが跳びまわり、シジュウカラ、エナガの群が舞い渡る。道は落葉で埋まっている。林の奥でアカゲラもドラミングをはじめた。雪は一冬4回か5回積もるが、せいぜい10センチそこそこ。雪の朝、森は白サングの林の様になる。雪が凍って枯木立を木花で包む。広場や道にはウサギ、タヌキ、キツネの足跡が縦横についている。ある雪の降る夜、自然館の外壁をコツコツたたく音がする。そっと戸外を見るとキツネが一匹、人の気配にふりかえりながらブッシュの中に隠れた。あくる朝戸外を見ると、東の森から台所の外をうかがい、青少年の家のカマド附近をうろついた足跡が、ふたたび森の奥へと続いていた。



今 浮島工業団地東側